湖風（うみかぜ）

NALCびわこ彦根・広報誌
第１２３号・平成２９年４月１０日
彦根市後三条町１２５（安田武雄方）
電話＆FAX０７４９・２３・２５３７
編集・発行責任者・小林　　博

胃瘻（いろう）

１．　胃瘻（いろう）とは

胃瘻は、内視鏡を使って腹部に小さな口をつくる手術を行、そこから、チューブを使って直接胃に送り込むという方法です。
こうすると、口から物を食べられなくても、患者は生き続けられます。
胃瘻を進められる患者は、高齢者で認知症が進み、食事を摂ると食物が食道から気管支に入って誤嚥性肺炎を起こす可能性が高いと判断された患者です。病院はたいていこのように家族に説明します。こう言われるとなるほどそうかと思い、受け入れてしまいます。

２．　胃瘻をつける理由

施設や医療機関が胃瘻を進めるには別の理由があります。まず、胃瘻を付ければ患者の食事の世話が省けます。少ない人数で入居者を看ている場合、食事の世話が効率的にできます。さらに、患者の寿命が延びるので、その分、医療費、介護費からの収入が維持できるようになります。このような都合で付けられるケースが多く見られます。

３．胃瘻の目的

胃瘻は、回復し食物が口から摂れるようになれば外せます。しかし、高齢者の場合は、余り起こらないと考えるべきです。一旦胃瘻を付けると、手足の関節も固まり亡くなるときには人間とは思えない悲惨な姿になります。

欧米の病院では、高齢の胃瘻患者はいないそうです。胃瘻や栄養満点の点滴で、人工的に延命を図るのは、逆に老人虐待と考えられています。このように、胃瘻の問題を問われるのは、終末期の延命治療をどこまでやるかということですが、「自然死」を知らない現状ではそうはいかないようです。　　（安田）

びわこ彦根広報板

〔２月の活動記録〕

時間外預託点数　６点　（１人）
奉仕活動点数　　２点　（２人）

〔運営委員会・月例会〕

実施　　３月　７日（火）ＰＭ１：３０～
予定　　４月　４日（火）ＰＭ１：３０～

〔２月度の経過報告〕

*宅老所の開催実績
おしゃべり４回２５名　パソコン０回
卓球０回０名　　読書５人１０冊
チビッコサロン　４組６名

〔助け合い〕　０件

〔福祉調査センターの活動〕

実施　　３月　２件（外部評価）
予定　　４月　未定（外部評価）

〔連絡事項〕

・3月１日にナルク主催の自主フオローアップ研修が道の駅、米プラザ,で行われました。友田、小林、岩崎（勇）が参加しました。
・３月１４日ハートピア京都で、ナルク支部の代表が集まりました。小林代表が参加しました。各支部は会員の数が多いということです。
・３月２３日に彦根市宅老所の運営費補助金の交付申請書を提出しました。小林代表と安田が、運営内容を説明しました。
・**４月４日（火）～毎月第Ｉ火耀日にコンキ体操を**しますので参加をしてください。包括支援センターの澤田さんが指導してくださいます。